



教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和5年 冬休み号
児童数397名 文責 澤村幸夫



初冠雪 はつかんせつ

冬の便りが続々と届いています。すっかり冬らしい寒さとなりました。比良山系の山々も山頂付近が積雪で白くなっています。

早いもので、今年もあとわずかとなりました。保護者の皆様には、日常の学校運営に温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。地域の皆様におかれましては、登下校の安全を見守ってくださったり、ゲストティーチャーとして、授業を支えていただいたりと、子どもたちのために多大なるご支援をいただきました。本当にありがとうございました。

今回は、学期末にふさわしく、地域の一般の方から寄せられ

た嬉しいハガキを紹介させていただきます。そのハガキが下のコーナーに書かせていただいたものです。なんと温かなお声でしょう。そして、ここに登場する本校児童のなんとも優しい心、嬉しいハガキを寄せてくださいました地域の方に感謝するとともに、和邇小学校の一員として、とても誇らしい気持ちになりました。ハガキに書かれていた内容や住



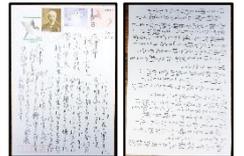
和邇小学校創立150周年記念おめでとうございます。今日はとても嬉しかったお知らせをいたします。私は83歳のおばあ、足も少し悪いのですが、月曜日の朝、生ゴミを出します。いつもより柚子を沢山絞り、その皮の絞りかすで袋はパンパンで大きく重たかったのです。すると私の後ろから手がニョッと伸びて「持っていったげる」と、見ると何とまだ低学年と思われるかわいい男の子さんです。ゴミはとても重たかったので断るのも折角なので「二人で持って来れる」と言うのと「一人で持てる」と言ってさっさと集積所まで運んでくれました。多分重たかったことでしょう。その親切に有難く思わず目頭が熱くなりました。名前を聞いたのですが耳も遠いのではっきり聞き取れなかったのですが、〇〇くんと聞きました。聞き間違っていると思います。もし分かりましたならば「おばあさんは、僕の親切がとても嬉しかった。一生の思い出になりますと喜んでいました」と先生から伝えて下さればこの上なく嬉しいです。お忙しい中、よろしく願い申し上げます。和邇小のますますのご発展、お祈り致します。

所から、対象の児童には、その気持ちを伝えることができました。また、全校の子どもたちには、「魔法の部屋」で紹介させていただきました。

以前、テレビ広告に次のようなフレーズがあったことを思い出しました。

「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える
「思い」はだれにも見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える。その気持ちをカタチに。

今回のエピソードは、まさに「こころ」がカタチになったシーンだと思います。明日から、冬休みに入ります。年末年始は日本の伝統的行事の多い休みです。ご家族で過ごされる機会、あるいは人と会う機会が多い家庭もあろうかと思えます。子どもたちの「優しいこころ」がいろいろな場面でカタチになることを願っています。



和邇小学校の
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

5年 フローティングスクール 12/6・7

宿泊によるフローティングスクールが再開され、下阪本小、仰木小とともに、ミックス班による活動を実施し、



貴重な体験をしました。5年生にとっては、小学校生活初めての宿泊で、不安もあったかと思いますが、事前に多くの準備を進めながら当日の活動を迎えました。係の仕事に責任を持ち、初めて出会う他校の友だちと意気を合わせ、多くの交流を持ちました。滋賀県人として、琵琶湖と向き合う機会でした。多くの学びがあり、素敵な思い出として残る2日間でした。当日の様子を動画にまとめましたので、左のQRコードからご覧ください。

フローティングスクール

紙面配布のみ表示



期間限定 12/12~1/31

3年 工場見学と琵琶湖博物館 12/1

3年生は、パナソニック草津工場の見学と琵琶湖博物館を訪れました。工場見学では、安全に働くための工夫について説明があり、メモを



とりながら考えることができました。その後、琵琶湖博物館に到着し、展示室にて「昔の暮らし」について学びまし

た。滋賀県の大昔からの生活と、昔の暮らしについて展示を見ながら学習しました。3学期からの社会科の学習に活かそうです。動画にまとめましたので、左のQRコードからご覧ください。

3年 校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 12/12~1/31

家族ふれ愛標語入賞作品

心温まる家族のふれあいを、うまく標語にまとめました。



優秀賞

「家族の輪 広げてくれる うちのねこ」

「ごちそうは 家族の笑顔と いい匂い」

「朝ごはん 家族で始まる 家族の輪」

6年生 「マスク取れ 外で見られる 家族の笑顔」

「さくごしに 家族とならび 夕日みる」

5年生 「夏の空 花火とともに 光る星」

「お父さんを 水鉄砲で ねらいうち」

4年生 「夏休み マスク気にせず 笑顔咲く」

「いってきます 一人一人と ハイタッチ」

3年生 「ゆずりあう いそがしい朝 はいどうぞ」

「いただきます みんなでそだてた 夏やさい」

2年生 「かぞくとの いっしょのじかん さいこうだ」

「てをあわせ ごせんぞさまに ごあいさつ」

1年生 「おてつだい わたしがすると ままえがお」

ウェルビーイング シリーズ 子どものWell-being 第9弾 「失敗のすすめ」



学校のクマノミの赤ちゃん
本文との関連はありません。

Well-beingとは、心身ともに満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。現在、あらゆる分野で注目を浴びていて、さまざまな調査や研究がなされています。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすこととなります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せだと感じるか」ということとなりますが、シリーズ第9弾は、「失敗のすすめ」を取り上げたいと思います。

「何事も失敗を恐れず挑戦する」に用いる「失敗」ではありません。誰も果敢に挑戦していくことが良いとされますが、できれば失敗せず「成功」していきたいですね。しかし、ここで言う「失敗のすすめ」は、失敗を重ねることに意味があるのです。

現在、私たちは「人工知能」の時代を生きています。何十年も前から、多くの研究者や脳科学者が人工知能の研究に取り組み、あらゆる分野で成果を上げてきました。今から7年前の2016年3月、世界最強の囲碁棋士にAIが勝利し「とうとう人工知能が人類を超えた」というニュースが世界中に駆け巡りました。あれから7年、人工知能はもはや私たちの生活になくてはならない存在となり、生成AIがあらゆる分野で活用されるようになりました。生成AIとは、データから学習して新しいものを創るAIです。この研究の過程で重要なことは、いかに多くのデータ(情報)を入力できるか、つまり活用すればするほど性能が上がるということです。さらに印象的なことは、失敗させないと、センスが鍛えられないということです。研究者によると、新しい事象に、どれくらい適切な答えを出せるかがAIのセンスの見せどころとなりますが、失敗させないAIは、明らかにセンスが悪くなるそうです。

これと同じことが、私たち人間の脳で起こっています。私たちの脳は、失敗して痛い思いをすれば、その晩、眠っている間に、失敗に使った関連回路のしきい値を上げて、神経信号を行きにくくするそうです。こうして要らない場所に電気信号を流さないことが、実は脳にとって最も重要なことなのです。睡眠って、やはり大事なのです。

私たちの脳には、数えきれないほどの回路が入っています。これらの回路になんとか信号が流れてしまえば人はとっさの判断ができません。目の前を通り過ぎた黒い影が猫だと分かるためには、猫がわかる回路だけに信号が流れる必要があります。熊だと分かる回路にも、ネズミだと分かる回路にも信号が流れてしまうと、目の前の黒い影の正体がわからず、自分の身を守ることができません。

とっさに使うべき回路の多くは、成功体験で手に入れることも可能ですが、「まだ経験したことがない」ことを判断するには、失敗体験で手に入れた回路でないとうまくいきません。センスがいい、勘がいい、発想力がある、名案が浮かぶ、これらは自ら失敗して痛い思いをすることで、脳の中に「信号が行きにくい場所」ができ、「信号が行きやすい場所」を浮かび上がらせる、そうやって手に入れるしかない能力なのです。失敗を恐れる必要はありません。失敗をいさぎよく認めて、十分に胸を痛めたら、すがすがしい気持ちで寝ることで、翌朝には、脳は何段階も良くなっているのですから。ただし、失敗を確実に脳に伝えるために大事なポイントが3つあります。1つ目は、「失敗を誰のせいにもしない」ということです。失敗を人のせいにする、脳は失敗に気付きません。2つ目は、「過去の失敗をくよくよ言わない」ことです。くよくよ言うと、せつかく消した失敗回路に再び通電してしまうからです。3つ目は「未来の失敗をぐずぐず言わない」ことです。まだ起こっていない未来の失敗をぐずぐず言うのは得策ではありません。

私たち大人が子どもに失敗をさせないために、手をつくし、あれこれと指示をして、成功体験だけを繰り返すと、脳の本来の成長を妨げるだけでなく、豊かに(幸せに)生きる力をも奪ってしまうのです。

答えのない未来を生きる子どもたちに、「幸せに生きる力」を育むには、子どもを信じ、自分で決定させ、失敗を受け入れ、そして見守り、子ども自身が失敗を含め多くの経験を積むことが何より大切です。



学校のチンアナゴ
本文との関連はありません。